

【科目名】 音声医学		【担当教員】 氏平 明						
【授業区分】 専門分野	【授業コード】5-30-1130-0-1	(メールアドレス)						
【開講時期】 1 年次 後期	【選択必修】 必修	http://ujihira.my.coocan.jp						
【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ	(オフィシアワー) 来学時に対応						
【注意事項】								
(受講者に関わる情報・履修条件)								
必修科目で、講義への出席は重要です。試験及び国家試験で問われることの多い事項を重点的に講義します。								
(受講のルールに関わる情報・予備知識)								
授業の大半は、パソコンからのプロジェクターの映写で進めるが、板書も多用する。								
【講義概要】								
1) 音と音声の物理的側面を、ハンドアウトとパワーポイントで概要を示し、教科書で重要ポイントを詳細に見てゆく。 2) 音声生成の生理的過程を内視鏡やストロボスコープ等で撮影した DVD で紹介し、ハンドアウトと教科書を通して、その過程を生理的・物理的に分析してゆく。 3) 音響分析ソフトを用いて、音声の分節的特長と超分節的特長を提示し、各単音やプロソディックな指標を読む練習をする。言い換えれば、各種母音、各種子音の弁別と、モーラと音節、アクセントとイントネーションやプロミネンスを確認する練習をする。分析の種類はスペクトログラム、LPC 分析、基本周波数、波形分析等である。 4) 直接言語障害に関係するような病的音声について、音響分析を通じて学ぶ。分析のパラメーターは、PPQ、JP、APQ、SP、NNE、STP である。								
【一般教育目標 (GIO)】								
1. 音と音声の物理的な側面と音声の生理的な側面を音響音声学の領域で理解する。								
2. 初歩的な音響分析ができるようになる。								
3. 音声言語の勉強の動機づけと興味を引き出す。								
【行動目標 (SBO)】								
1. 音声学・聴覚心理学・言語学への波及的効果。								
2. 科学的に、計量的に音声言語を分析する能力が培われる。								
3. 音声を見ることで、音声言語を視覚的に把握できるようになる。								
【教科書・リザーブドブック】『言語聴覚士の音響学入門』 吉田友敬著 KAIBUNNDO								
【参考書】								
【評価に関わる情報】								
(評価の基準・方法)								
成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。								
記述式試験を実施する。								
【達成度評価】	試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90						10	100 点
評 取り込む力・知識	50						10	60

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力	40						40
	コラボレーションとリーダーシップ							
	発表力							
	学修に取り組む姿勢							
【授業日程と内容】								
回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)	時間(分)				
1	調音音声学・音韻論と音響学(調音音声学等の復習)単音、分節素、モーラ、音節、プロソディックワード	講義	復習	30分				
2	音の物理的側面 1 (音波について) 縦波、横波、波長、周期、周波数、音速、波の性質	講義	復習	30分				
3	音の物理的側面 2 (音の強さと大きさ) インテンシティとデシベル概観、波形と振幅	講義	復習	30分				
4	音の物理的側面 3 (音源と音のスペクトル) 音源、共鳴、放射、ソースフィルター理論	講義	復習	30分				
5	音声を見る 1 (波形、スペクトログラム、LPC 分析) 母音、共鳴、舌の位置とフォルマント、母音のフォルマントの計算	講義	復習	30分				
6	音声を見る 2 (波形、スペクトログラム) 子音、阻害音と共鳴音、有声と無声	講義	復習	30分				
7	音声を見る 3 (発話の音響分析) 発話の分析と各単音、まとめり(モーラ、音節、フット)の特徴	講義	復習	30分				
8	病的音声の分析とその音響的特長 嘔声、病的音声とその指標、ゆらぎの分析、障害と病的音声	講義	復習	30分				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の 3 倍)に含むべき時間を示します。